

大治二年正月日

案主肥後掾中原盛尚

〔古今著聞集好八色〕藏人玄のびやかに此女房參り侍よし奏し申ければうれしく思しめされてや  
がてめされにけり略○中彼少將は隱去なりけるをあらぬかたにつけてめし出されてよろづに

御情をかけられて近習の人数にくはへられなどして程なく中將になされにけりつゝむとす  
れどをのづから世にもれ聞へて人の口のさがなさは其比のことわざにはなるとの中將とぞ  
申けるなるとのわかめとてよきめののぼる所なればかゝる異名を付たりけるとかや

〔八幡宮本紀三〕長門國豊浦郡住吉に坐荒御魂神社略○中十二月晦日の夜は稚海藻刈とて神秘の  
神事ありこれは晦日の夜半ばかりに此御社の下神人豊前國波夜止毛の沖に出るはやともよ

りも又神人出向ふ此時潮はるかに退て雙方の神人遙々海底にいたるゆる互に松明の光も見  
え聲も聞ゆる程にてとも稚海藻をかり取略○註これを元日の朝御供にそなふ波夜止毛にて

此禮今にたえずいにしへは其刈取た  
る稚海藻を禁裏にも獻せしとかや

〔延喜式四十二〕海藻廬略○中右五十一廬東市海藻廬略○中右卅三廬西市

〔新猿樂記〕四郎君受領郎等刺史執鞭之圖也略○中宅常擔集諸國土產貯甚豐也所謂略○中丹後和布

〔毛吹草三〕伊勢國崎若和布同和布耳志摩和布三河稚海藻チカイサウ若狹若和布

出雲加々浦若和布紀伊賀太浦賀太和布阿波鳴門和布肥前若和布

〔寛政四年武鑑〕松平下總守忠功桑名伊勢時獻上三月洗水和布

松平主計頭忠馮肥前島原時獻上三月若和布稻垣攝津守長以志摩鳥羽時獻上四月洗わか

め

〔雲錦隨筆二〕阿波鳴戸といふは阿波國板東郡の端と淡路國三原郡瓮崎鳴戸崎トモと雙相迫りて海  
を夾む略○中因云和布は當地の名産にして鳴門和布といふ是を採て灰に糶し干乾を灰干の和